

令和四年第三回議会定例会一般質問

「物価高対策として水道料減免を」

田中大

緊急に実施しなくてはならない

エネルギーと食料を中心とする物価高は、低所得世帯ほど家計の重荷になっていることが、8月13日、総務省や日銀の調べで裏付けられたと報道発表があり、景気の足枷となる低所得世帯の負担増を軽減できなければ、日本経済の本格回復は望めないとの声も聞かれます。

主要メーカー105社における、今年以降の価格改定計画を追跡調査した結果、6月末までに累計1万5257品目で値上げが判明しました。6月1日調査時点から約1カ月間でさらに5000品目の値上げ計画が明らかとなり、このうち7月単月での値上げは1588品目が実施されるほか、8月は初めて2000品目を超えたとのことです。この結果、7・8月の2カ月だけで4000品目超が値上げされる予定で、「値上げの夏」の様相を呈してきました。値上げの勢いは秋口以降も止まる気配がみられず、10月も単月としては年内最多となる3000品目超で値上げ計画が明らかとなっております。

当町が、物価高騰から町民の生活を守るために、緊急にできることを実施しなくてはならないと考えます。そこで、生活を送るうえで必要不可欠な水道料金の減免等が全国で始まってきております。

水道はほぼ全世帯・全町民が利用していることに加え、何よりも利用者の申請手続き不要で速やかに実施できるメリットがあります。



町長

検討していきたい

県内でも、むつ市をはじめ、いくつかの市町村が実施中、若しくは実施を予定しているとのことです。当町の水道につきましても、加入率は約96%となっております。料金収入については、ひと月平均で約2100万円ございますが、仮にひと月全額減免した場合、給水収益の悪化を招くことになります。また、全額免除については利用者間での減免額に大きな差が生じ、公平感を保てないと考えます。基本料金のみを減免するのが妥当と思いますが、利用者にとっては、あまり効果が感じられないのではないかと考えております。

今後、国から臨時の交付金が交付された場合には、検討していきたいと考えております。

田中大

強く要望する

『減免を行っても、利用者にとっては、あまり効果が感じられないのではないかと』という点につきまして、『生活費が高騰したことであなたの家計に影響を与えた項目』の2位に水道光熱費が、そしてさらには、水道料金は大半の町民へ、幅広く負担軽減につながります。

今後、臨時交付金が交付された場合、水道料の減免について検討されるとの答弁でありましたが、効果的な減免について、今からでも、検討していただきますようお願いしまして、質問を終わります。



平内町
議会議員

田中だい通信

さらに前進！明日に取り組む！未来を創る！

夢も希望も大！

スローガンのもとでさらに前進！

目次

1. 安倍元総理、お疲れさまでした
2. 平内町出身者を応援しよう
3. 政治は、人（人脈）だ
4. 五穀豊穡・害虫駆除
5. 経済文教常任委員会所管事務調査報告書
6. 視察研修報告（宮城県亘理町役場庁舎）
7. 物価高対策として水道料減免を

安倍元総理、お疲れさまでした

7月8日、安倍元総理が銃撃され、お亡くなりになりました。自民党青森県連には献花台が設けられ、私も7月15日、献花・記帳させていただきました。

この度の突然の死は、本当に悔やんでも悔やみきれない思いでいっぱいあります。心からご冥福をお祈りいたします。



平内町出身者を応援しよう

御存じの方も多いと思いますが、映画監督の下山天さんをご存じでしょうか。同監督最新作「アライブフーン」を鑑賞してまいりました。車のドリフトレースの映画ですが、臨場感の素晴らしい映画です。

当町出身者をみんなで応援しましょう。



政治は、人（人脈）だ

7月13日（水）、県下町村議会議員研修会に参加しました。講師は、テレビ等でお馴染みの政治ジャーナリスト田崎史郎氏でした。

田崎さんの経験を踏まえての講義であり、印象に残った言葉は2つ「政治は人（人脈）であり、政策は二の次だ」「政治の世界は、貸し借りの世界だ」。言われてみれば確かに思いあたる事がたくさんあります。

これからも、さらに人脈を広げる努力をしてまいります。



町政へのアイデア、ご提案、ご要望募集中！
皆様から頂いたお声は、議会での質疑や担当課へ直接要望するなど、責任をもって町へ届けます！

電話 017-763-0170 FAX 017-755-4295 携帯 090-3125-8752

メール tanakada_0525@yahoo.co.jp

※この新聞は後援会討議資料です



町をよりよくする方法を模索する Seeking.

視察研修報告(宮城県亘理町役場庁舎)

期間：令和4年6月30日(木)～令和4年7月1日(金) 場所：宮城県亘理町

視察地概要

宮城県の南東部、仙台市から南に約26キロメートル。東に黒潮流れる太平洋、西に標高200メートル前後の阿武隈高地の丘陵地帯、北には阿武隈川が流れ、肥沃な土地が広がっている。町面積は、73.6平方キロメートルで、南北10キロメートル、東西7キロメートル。縦長の形をしており、中央部の水田地帯を住宅地が取り囲む緑豊かな田園都市です。冬は比較的温かいため雪が積もることはほとんどなく、夏は心地よい海風が暑さを和らげてくれる等気候は温暖。人口33,320人、世帯数13,131世帯で、特産品は、いちご、りんご、はらこめし、ほっきめし等です。



調査内容

〇経緯

昭和38年に建設した旧庁舎(RC造3階建)は、東日本大震災により被災し、解体。発災から約1カ月後に旧庁舎の駐車場を利用して、平成23年4月に仮設庁舎(プレハブ)をリース。各課が分散化、待合スペースがない、狭隘な作業スペースなど、その環境は好ましいものではなく、設置から4年が経過した時点から、劣化による不具合も顕著に現れるようになってきた。国からの復興に係る補助金の期限が震災から10年後にあたる令和2年までであることも考慮し、平成25年度から新庁舎建設事業を進めていった。

なお、被災前の平成8年に第三次亘理町総合発展計画で公共ゾーン配置、公共ゾーンの位置づけを行い、平成12年度には公共ゾーン整備事業基本構想を策定。平成16年12月には公共ゾーン用地を取得済みであったとのこと。

〇新庁舎の特徴

- ・新庁舎の目指す姿「笑顔ひろがる交流拠点」の基本理念を基に、「やさしさと思いやりのある行政サービスを提供する庁舎」「町民が集い、交流を育む、開かれた庁舎」「町民の安全・安心を支える防災拠点となる庁舎」を基本方針として設定。
- ・保健福祉センターを併設し、当該センターと本庁舎は1階で連結し、自動ドアで行き来できる
- ・県産木材を多用したRC造3階建てで、「町民交流拠点」「健康づくり拠点」「防災拠点」の3機能を持たせている
- ・庁舎1階には窓口業務の多い課、2階には事業課、3階には議場などを配置。また、自家発電装置を設けたほか、屋外には炊き出しスペースなどを設け、防災拠点としての機能もある
- ・庁舎周辺に外部倉庫・車庫を建設。防災広場、防災備蓄倉庫、ドクターヘリ臨時離発着場も備え、防災上の機能を充実。

〇防災に留意した点

- ・発災時、新庁舎は危機管理センター、保険福祉センターは医療センターとなり、多目的スペースは町民への情報伝達場所や災害関係事務スペース等として活用される
- ・発災時は、平時の会議室を防災対策本部室として利用。屋上にはヘリコプターがホバリングできる緊急救助スペースを整備している
- ・庁舎用の自家発電機は、隣接する車庫の屋上部分に設置しており、有事の際は3日間の電力を賄うことができる。また、断水時の給水活動用として、受水槽のタンクを新庁舎に隣接した地上部に設置している

まとめ

新庁舎建設となれば、財源確保が一番重要なこととなります。町単独の財源による建設は不可能であり、国や県からの補助金の利活用が重要であります。また、平内町は特別豪雪地帯の指定を受けていることから、新庁舎について、どんな手段で町民の意見を吸い上げるかを考えなくてはなりません。

町の問題・課題に立ち向かう Confront.

五穀豊穡・害虫駆除

6月19日(日)、内童子田茂木地区の伝統行事である「虫送り」を見学しました。「虫送り」とは、その年の農作物の豊作をお祈りする伝統行事であり、昔は現代ほど農薬が普及しておらず、農作物に害を及ぼす虫が後を絶たなかったことから、害虫を追い払い少しでも多くの農作物が収穫できるようにと農民の祈りが込められている行事です。

コロナ禍のなか、今回3年ぶりの開催で関係者の方々は、不安なこともあったとは思いますが、盛大に開催されました。本当におめでとうございます。沿道の観覧者も大勢で、町内は賑わいを取り戻しておりました。

田舎には、田舎の良さがあるものです。これを守るべく、今後も伝統芸能・伝統行事の存続には、力を注いでまいりたいと考えております。



経済文教常任委員会所管事務調査報告書

日時：令和4年7月20日(水) 10時から

場所：平内町役場議員控室、青森県産業技術センター水産総合研究所

案件：水産行政について(ホタテ貝ラーバの状況と今後の動向について)

報告

1.令和4年の親貝数

環境が悪い年でも採苗器に2万個/袋、付着させるためには1億4000万枚のホタテガイ親貝が必要とされるが、令和4年の親貝数は必要数の64%に留まっている。

2.西湾の採苗器への付着数が少なかった要因

- ・親貝数が少なかった
- ・東湾の親貝に大規模産卵が見られなかった為、全湾のラーバ数が少なかった
- ・ラーバの出現時期に強いヤマセガほとんど吹かなかった為、東湾からラーバが供給されなかった

3.今後の対処

- ・東湾の間引き後の袋や間引かれた稚貝は、西湾で有効活用できるよう、東湾から融通してもらう(漁業者個々において、資材業者などに仲介してもらうなど)
- ・間引き後の袋には稚貝が付着しているので、新たな袋の中に入れ、稚貝を有効活用してもらう
- ・間引かれた稚貝は再付着するので、新たな採苗器に収容し、稚貝を養成する
- ・東湾では稚貝採取の目処がつかないと融通できません。西湾では少ないながらも採苗器に稚貝が付着していることから、まず自分の採苗器から稚貝を採りましょう。
- ・個人または漁協間で、採苗器や稚貝採取時の2番子、秋の稚貝分散時の余剰貝を融通してもらいましょう。

感想

- ・総合研究所からの情報は、きめ細かく発信している。スマホなどでも閲覧できる。北海道に比べても先進的である。
- ・海的环境は、年々変化している。変化に対応していけないと将来は暗くなる。
- ・湾内の海底状況は、悪くない。(漁業者の話によれば、海底は汚れていると伺っていたが)

